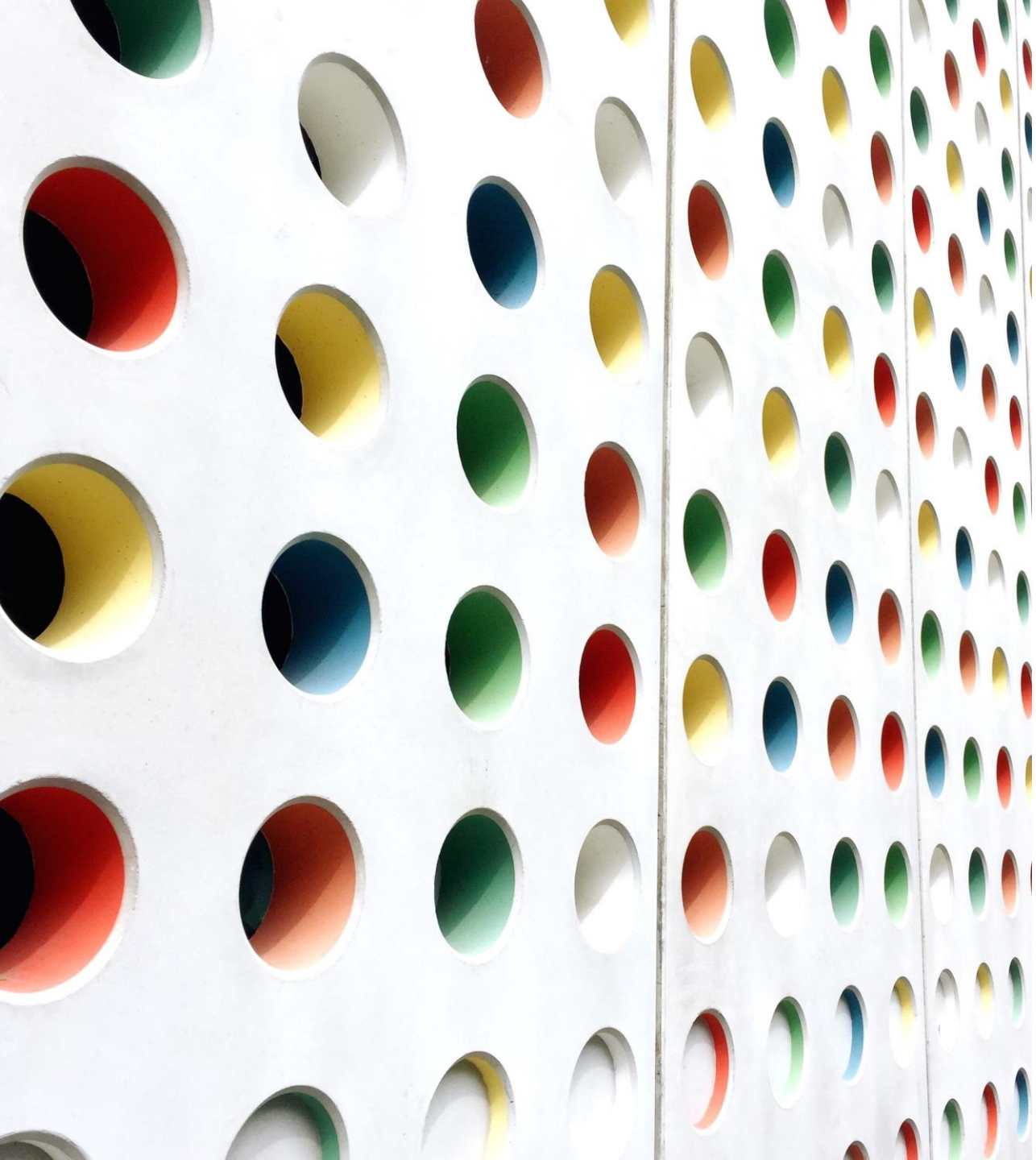

CLOコンファレンス2025

企業成長を加速する SCM改革と CLOに求められるもの

三菱食品株式会社　CLO

田村幸士

私のキャリア

総合商社の物流部門を振り出しに、多様な産業セクター（商品）、地域、業態、輸送モードと関わることで、“広く、浅く” 物流に携わって参りました。

20代	30代	40代	50代
• 海運（不定期船） • ドライバルク • 欧米	• 国際物流（コンテナ） • 家電、事務機械 • 欧州、ロシア、中国	• 航空貨物行政 • 通関（AEO） • 安全保障貿易管理	• 海外物流（東南アジア、ロシア、インド） • 自動車、アパレル • 国内物流（倉庫） • 食品（スーパー、コンビニ）

キャリアを通じて学んだこと・・・「物流」概念の多義性、共通性と特殊性、科学的アプローチの不足

私たちの会社の業態

食品メーカーと小売業をつなぐ、中間流通（卸）として、発荷主・着荷主の両面の役割を果たしています。

食品メーカー → **三菱食品** → **小売業**

加工食品
酒類
菓子
低温・チルド食品

約6500社

取扱高　約2兆円/年
在庫拠点　約350箇所
運行台数　約7600台/日

スーパーマーケット
コンビニエンスストア
ドラッグストア
生協
外食産業

約3000社

私たちの会社の物流課題

従来の物流管理業務のやり方では、ポスト2024年問題を乗り越えることは難しい、と認識しています。

従来の物流管理業務

物流（配送）委託先への「丸投げ」

着荷主としての意識欠如

コストと品質のトレードオフ

営業都合優先の部分最適

1. 可視化：課題自身が認識出来ていない
2. 最適化：組織縦割り・個社最適の限界
3. 持続可能化：環境価値・社会価値の実現

私たちの取り組み

課題認識に基づき、直近の3年間は「可視化」と「最適化」を通じた、物流業務の見直しを進めて参りました。

可視化	**配送の可視化**	トラックの稼働実績	実車率・積載率	**最適配車 運賃精算の自動化**
	作業人時の可視化	作業員の稼働実績	作業生産性	**計画的人員確保 庫内自動化の検討**
最適化	**社内貨物の共配**	商材・客先にとらわれないエリア配車		**配車機能の集中化**
	異業種との共同化	食品以外の消費財との共同化		**PALTACとの 物流提携**

パートナーへの期待

従来からの物流委託先に加え、物流の革新を先導するスタートアップ企業や、大学などの研究機関とのコラボを期待しております。

物流委託先

長期的なwin-win関係に基づく安定運用、
定量データの共有とそれに基づく継続的改善

三菱食品

大学などの研究機関

科学的・客観的な分析により物流の実態を解明、
対応策の基礎データとして活用

スタートアップ企業

新技術や新奇性のあるビジネスモデルの積極活用
（ローンチカスタマー）